

(別紙 12)

大学「人材育成強化科目」ホームページ掲載用原稿記入フォーム

※以下の項目を参考の上で作成をしてください（様式は自由です）。

実習企業・機関	宮古市 企画部 企画課
実習期間	令和元年 9 月 13 日 ～ 令和元年 9 月 15 日、9 月 23 日、9 月 24 日
学生氏名	平沼 里穂子
実習プログラム	<ul style="list-style-type: none">・ 企画課業務内容説明・ 総合計画実施計画ヒアリング同席（上下水道部、新里総合事務所）・ 9 月 29 日多文化共生講演会打ち合わせ同席・ 産業まつり・本州四端協議会ブース検討会・ 日本語教室「さくら」補助・ 観光通訳養成講座補助・ みやこ秋まつり手踊り、船山車参加・ 外国人観光客案内業務・ 宮古市国際交流協会 HP 記事作成・ 「多文化共生ラジオ」シナリオ作成、収録・ 「学ぶ防災」補助
学び・気づき (300 字程度)	<p>実習を通して学んだことは、国際交流に大事なことは「誰もが参加しやすく、互いの文化を共有し理解し合う」ということと、社会人になるにあたり身につけなければならないことは、周りをよく見てその状況に合った行動を考え、実行する力ということです。</p> <p>日本語教室「さくら」では参加外国人一人一人に日本人が付き、検定や日常会話の勉強を行っており、堅苦しい授業ではなく「楽しみながら学ぶ」という学習を続けたいような雰囲気で行われていました。参加していた在住外国人の一人は日常会話を勉強しており、その日はゲーム形式で日本語の使い方を身に付けようとしていました。このような学習方法は勉強に対して意欲がわきやすく、一緒に勉強する人とコミュニケーションをを取れるのでいい方法だと感じました。</p> <p>秋まつりでは外国人参加者の皆さんは浴衣を着て日本文化を体験していました。より日本文化を身近に感じる事ができたのではないかと思います。</p> <p>フィジー代表団の方が震災について学ぶ機会に同席させていただき感じたことは、海外にも積極的に震災について共有しなければならないことです。海外でも地震や津波が発生する可能性があるため、被災した私たちが経験を伝えていくことで救える命があると思います。また、震災後各国からサポートをいただいたので復興状況なども一緒に伝えられるのではないかと考えました。</p>

今後に向けた
抱負
(200字程度)

私を感じた自分自身の課題は、考えて行動に移すことです。秋まつりでの市役所の職員の方々の行動を見ていて、今の私には足りない力であると感じました。この力を身に付けるためには、普段から周りをよく見て行動することが大事であると思います。例えば、部活で自分が何をしなければいけないのか、アルバイトやボランティアを行う際には自分から進んで動くことなどを意識して生活していきたいと思っています。

インターンシッ
プをして気づい
た、実習先の魅力
(300字)

インターンシップを通して企画部企画課の業務について学んでいくと、国際交流に関して外国人の方々と市民が互いの文化を理解し合い、共有できる機会になるイベントを定期的に開催していることを知りました。たくさんの方が参加しやすい雰囲気づくりや細かい心遣いが宮古市の国際交流を盛んにさせていると思います。また、祭りなどのイベントでは職員自らが楽しむことで他の参加者や観客の皆さんと一体となり盛り上げていたことは、宮古市役所の魅力の一つなのではないかと感じました。

写真 (1~3点)

